



## 京都大学医学図書館での図書館利用者教育

北川 昌子

京都大学医学図書館での図書館利用支援の一貫としての利用者教育の実施状況と、今年度4月の授業について簡単にご紹介します。

### 1. 平成15年度の利用者教育の実施状況

- 4月 図書館の利用について (医員・研修医向けオリエンテーション)
- 5月 OPACの使い方講習会 (4回)  
社会健康医学系専攻への授業
- 6月 SciFinder Scholar 説明会
- 7月 Online Journal の使い方講習会 (3回)  
医中誌 Web 講習会
- 10月 PubMed 講習会 (2回)  
Cochrane Library 講習会 (2回)  
医科学専攻への授業
- 11月 Web of Science 講習会
- 3月 Ovid Database 利用講習会

### 2. 大学院医学研究科修士課程1回生対象の授業

修士課程は、平成12年4月に社会健康医学系専攻および医科学専攻の2専攻が設置されました。いずれも医学部医学科 (6年制) 以外から進学した学生が所属しています (医学部医学科卒業生は博士課程 (4年制) に進学)。

医学図書館が、修士1回生を対象に継続的に授業を行うことになったのは、平成15年度からです。平成16年度からは、医学部3回生にも授業を行う予定になっています。

(2ページに続く)

### 【目次】

京都大学医学図書館での図書館利用者教育	北川 昌子	...	1
立命館大学の利用教育	井上 雅人	...	3
メールマガジン発行のお知らせ		...	5
会費納入のお願い		...	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール: [dtkk@rg7.so-net.ne.jp](mailto:dtkk@rg7.so-net.ne.jp) (大学図書館問題研究会京都支部)

URL: <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/>

昨年度前期は社会健康医学系専攻、後期は医科学専攻を対象に1コマ(90分)ずつ行いました。社会健康は、担当教員が医学図書館のホームページの充実ぶりを見て授業を依頼されたのがきっかけですが、このほかは、医学図書館からの提案によるものです。これらは、継続的に行う予定になっています。

本来、情報検索の目的として、①必要とする情報をより迅速に的確に効率よく探し出し活用すること、②先行研究の現状と動向を知り、研究テーマの重複を避け独創的な研究を進めること、ということがありました。さらに最近では、利用者が直接オンラインで利用できるデータベースや電子ジャーナルが増えたため、情報検索やデータベースの基礎知識や技術を利用者自身が身につける必要が出てきたことが授業を行うようになった大きな要因と言えます。

#### 平成16年度の社会健康医学系専攻への授業

1コマでは、盛りだくさんの内容で説明に終始しがちであったため、平成16年度の社会健康の授業では、検索演習も盛り込み2コマ連続で行いました。大学院生実習室には一人一台ずつのパソコンがロッカーに常備されており、いつでも利用できる環境にあります。

医学図書館のホームページを基点として、図書館サービスの概要を各自で確認後、各データベース等の説明を受けながら、実際に検索してもらう参加型の授業になりました。

4月23日実施の、「社会健康医学基礎スキルI：文献検索・評価法」における「医学図書館のサービス紹介－文献検索法－」の内容は次の通りです。医中誌WebとPubMedは、別の時間に行われるため含まれていません。

##### [1限目]

1. 医学図書館の利用案内・各種データベース
2. 情報検索の基礎(論理演算・トランケーション・シソーラス等)
3. The Cochrane Library
4. Ovid Web Gateway (Database、Journal、Book) + Medline 検索演習

##### [2限目]

5. ISI Web of Knowledge (ISI Web of Science、ISI Journal Citation Reports、ISI Highly Cited.com) + Web of Science 検索演習
6. OPAC(蔵書検索)
7. Online Journal
8. その他

授業後のアンケートによると、博士課程等、正規の学生以外の参加も数人あったようです。より積極的に取り組もうとする意見等があり、充実した内容で好評であったことから、自己流検索法から脱した情報検索法への導入という目的は、十分果たせただろうと思われまます。

今後、各自の研究テーマで図書館の資料・情報を利用する時、授業を生かして発展応用していただければ、資料準備等に時間をかけた図書館員3人の努力も報われると思います。

#### 3. その他の利用者教育等

医学図書館は、医学研究科・医学部(附属病院含む)及び関係部局(再生医科学研究所、ウイルス研究所、放射性同位元素総合センター、放射線生物研究センター、医学部保健学科(医療短大))の経費で運営されており、図書館の名称とは異なる広範囲な利用者がいます。また、他学部と異なり研究室秘書、医員・研修医や様々なプロジェクト経費によって研究を行う非常勤研究者が多いため、まずは京大で文献を入手できる方法を知ってもらうことが必要です。4～5月は、組織の新構成員を迎え、図書館を効果的に使ってもらうための教育には適した時期で、今年度も4月20日から5回(同内容)の予定で、毎回6人程度の小集団に「OPACの使い方講習会」を実施中です。その他の講習会も昨年同

様行う予定です。

利用者からは、講習会の機会をもっと増やしてほしいという要望があります。一方で、各図書館で行われつつある e-learning の様々な発展的手法も検討する必要があるだろうとも思います。しかし、閲覧掛の一係だけで、参考調査、相互利用をも兼ね、利用者教育の細部を充実させるためには、現実の業務量と理想とのバランスが難しく、職員の熱意にかなり依存せざるを得ないのが現実です。

医学関連分野の顕著な傾向として、電子ジャーナルの導入件数の増加に伴い、図書館の入館者数や文献複写件数が減少している状況ですが、このような利用者教育等のサービスをさらに進めることで、医学図書館への周囲のご理解ご協力をいただければと思います。

最後に、すでにご存じかもしれませんが、様々な利用者支援の例を、参考のため一部ご紹介しておきます。

#### <参考文献>

1. 上原恵美. 大学図書館とe-learning:カナダ・米国の大学図書館を訪問して. 大学図書館研究. 48, p. 45. (2003. 8)
2. 逸村裕. 情報リテラシー支援の取り組みについて. 名古屋大学附属図書館報:館燈. 150. (2004. 2. 15)
3. 大川陽子. 授業を支援する図書館利用教育の展開. 医学図書館. 50(2), p.147-149 (2003. 7)
4. 日本図書館協会図書館利用教育委員会編. 図書館利用教育ハンドブック. 大学図書館版. 日本図書館協会発行. (2003. 3)
5. 東京大学情報基盤センター. 情報リテラシー教材共用プログラムについて. (2004. 03. 17)  
[http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/litera\\_c/main.html](http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/litera_c/main.html)
6. 九州大学附属図書館. 情報検索講習会 オンデマンド  
<http://minerva.lib.kyushu-u.ac.jp/literacy/school/demaHP2003.html>

きたがわ まさこ (京都大学医学図書館)

## 立命館大学における利用教育

井上 雅人

### 1. はじめに

今年はひさしぶりに教職員組合で理事会との交渉に参加することになったのですが、私立大学をめぐる状況がいつそう厳しさを増しているだけに、その議論はとても意義深いものでした。交渉は6月末で一応終了しましたが、そこで論議された論点は「教育力」でした。労働組合と理事会との交渉ですから、賃金・労働条件の交渉はもろんなのですが、主体的に学ぶ学生をいかに育てるか、ということが組合・理事会双方で熱心に議論されたのです。議論の中心は学部における教育力ということでしたが、図書館においてもここ数年、いかに図書館を使いこなす力をつけてもらうか、ということで利用者教育に力を注いできました。以下では、立命館大学衣笠図書館における利用教育の概要をご紹介します。

## 2. 衣笠図書館における利用者教育の概要

立命館大学は衣笠・草津・大分と3キャンパスに分かれています。衣笠だけでも5学部を擁し、衣笠図書館は年間100万を越える入館者があります。このような大規模キャンパスでも学生一人一人にきめ細かいサービスをめざし、利用者教育を充実させるため、様々な取り組みをおこなってきました。まず衣笠メディアサービス課内にガイダンス委員会が組織され、半期ごとの方針と企画内容を策定、課全体の協力も得ながら、さまざまなガイダンスを実施します。その利用者教育の概要は以下のようなものです。

### 1) 新入生ガイダンス

学部新入生だけでなく、大学院生・編入学生や留学生、新任教職員に対するガイダンスもおこないますが、何といても4月の学部新入生ガイダンスに最も力を注ぐこととなります。以前ほどの学部に対して、同じような内容でガイダンスをおこなっていましたが、近年は学部との連携を強化し、学部の実情に沿った形で、ガイダンスをおこなっています。これが近年の最も大きな特徴になっています。その最も大きな契機は総合情報センター内に情報リテラシーのプロジェクトが存在し、学部における『情報リテラシー授業』の中に図書館利用法が加わったことが、関係しています。この点について、詳しくご紹介したいのですが、紙幅の関係から次の機会にしたいと思います。とにかく学部といっても文学部や産業社会学部のように1000名を超える学部から国際関係学部のように300名に満たない学部があります。また法学部などでは判例や法令といった情報も含めなければなりません。内容としてOPACの紹介からデータベースを使った文献探索、学部によっては図書館ツアーを盛り込んだり、課題として実際に貸出をさせるなど、学部によって工夫をこらしてきました。とにかく新入生は4月からOPACやデータベースに触れ、実際に図書を探し出して借りなければならないのです。そして上記のような数の新入生が一時に図書館に押し寄せ、カウンターではかなりの盛況(?)を呈することになります。現在、すべての学部で上記のようなガイダンスができてはいるわけではありませんが、学部の中で検討してもらい、実情にあった内容にしていきたいと考えています。

### 2) レベル別検索セミナー・書庫入庫ガイダンス

4月からリプレイスされたRUNNERS(蔵書検索システム)から他のデータベース利用法まで、レベルに応じた検索スキルを身につけてもらうため、初級から上級までを設定して希望者を募集しました。また衣笠図書館ではこれまで書庫資料については4回生以上に入庫を認めていましたが、4月から書庫入庫ガイダンスをおこない、これを修了した学生には1回生でも入庫を認めるようになりました。どちらも学生には好評で日時を設定して広報しているのですが、書庫入庫ガイダンスなど、時期を過ぎても希望者があり、「次はいつあるのですか?」といった要望が多く出されています。

### 3) ステップアップセミナー(クラス・ゼミ対象)

4月から6月までの間、ゼミ担当教員からの申し込みによるガイダンスで、これもここ数年で教員に定着しているものです。だいたい30~40くらいの申し込みがありますが、教員によってはゼミナールのプログラムの中に図書館利用法がちゃんと入っているのでしょう、3月から毎年、申し込まれる教員も少なくありません。だいたいOPACやデータベースを使った文献探索が主な内容となりますが、今年はマイクロフィルムを使った文献研究のためのガイダンスや図書館ツアーとセットにしたもの、学外相互利用の詳しい紹介など、教員の個別的要望にも、最大限応えられるよう準備をしています。毎回アンケートを取っているのですが、3回生以上でも、これまでOPACやデータベース利用法を知らなかった学部生がかなり存在し、『もっと早くから実施してほしかった』というような声が必ず上がってきます。現在の1、2回生は「情報リテラシー」授業を受けていますので、基本的にこのような声はなくなるとは思いますが、ゼミを通して図書館利用ガイダンスは教員との強いパイプを作ることに

なり、今後も強化していきたいと考えています。

#### 4) その他

キャリアセンターと連携した「就職活動応援講座」や、図書館スタッフを対象とした個別データベーストレーニングなども、適宜実施しています。またその他の図書館施設として修学館や文学部の人文系文献資料室などがあり、図書館とは連絡をとりながら、教員や院生向けに独自のガイダンスを展開しています。さらに今後の重点として、ネットワークを使ったガイダンスがあげられます。OPAC やデータベースのマニュアルなどはできるだけ Web 上にアップすることにより、利用者が自分でスキルを習得できるような仕組みを作りだすと同時に、レファレンスカウンターではより高度な文献探索要求に的確に答えることを目指しています。

以上が、衣笠図書館における利用教育の概要ですが、これらを実際に担当するスタッフも専任職員だけでなく、業務委託スタッフや学生スタッフ (Library Staff) など、まさに課全体の力で実施していることも付け加えておきたいと思います。

### 3. 結びとして

最初に今年の立命館大学における春闘論議を紹介しましたが、現在日本の大学は国公私を問わず、教育力が問われていると思います。大学が主体的に学ぶ学生をいかに創り出すかを模索する中で、図書館はどのような役割を果たすのでしょうか。私は学ぶ学生の形成にとって図書館には多く役割があると思います。教員や学部との連携をいっそう強化することが必要ですが、やはり図書館からの学内、学外にむけた情報発信の必要性を痛感しています。

いのうえ まさと (立命館大学衣笠メディアサービス課)

---

## メールマガジン発行準備のお知らせ

---

大図研京都支部では、メールマガジン「大図研京都支部 NewsLetter」の配信準備をはじめました。手始めに、メーリングリスト「yurikamome」上にて創刊準備号をすでに配信しております。「大図研京都支部 NewsLetter」では、「大図研京都支部報」ではカバーすることが難しいニュースやイベント情報などを中心に、主としてインターネット上の情報をすばやく皆様のお手元へお届けすることを目指しております。

今回の配信は、創刊準備号の名前の通り、創刊にあたって皆様のご意見やご感想をいただくためのいわば試験版です。記事の内容や体裁、各項目の有用性、配信方法など、どんな点でも結構です。ご意見・ご感想をお寄せください。皆様よりお寄せいただいたご意見を元に、今後の配信体制を検討いたします。

なお、今回配信したメールマガジンのコンテンツは以下の通りです。すでに多くの会員の方が「yurikamome」に加入されていると思いますが、もしまだ加入していらっしゃらない方がありましたら、この機会にぜひご加入ください。

大図研京都支部 Newsletter

創刊準備号 2004.07.01

○お知らせ

- ・京都ワンディセミナーのレジュメ配布中

○大学・図書館関連ニュース (2004.06.01-06.30)

- ・著作権法改正案、衆議院本会議で可決 (ITmedia, 2004.06.03)
- ・DOAJ が論文検索サービスを開始 (Directory of Open Access Journals, 2004.06.03)
- ・江戸川大学、図書館業務を紀伊国屋書店に全面委託 (NIKKEI NET, 2004.06.24)
- ・新書・選書をネットで検索 「新書マップ」 (asahi.com, 2004.06.27)

○研修・講演・イベント情報 (2004.07-08)

- ・大学図書館問題研究会京都支部総会
- ・大学図書館問題研究会京都支部総会「最近における分類表の動向—DDC22 版を中心として—」
- ・大阪府立中之島図書館 ビジネスセミナー「大阪の中小企業だからこそ。今！」
- ・第3回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム  
「東アジアにおける美術・文化財情報のネットワーク化を考える」
- ・大学図書館問題研究会 第35回全国大会

○京都支部ウェブサイト更新履歴

- ・4月の人事異動に伴い、支部委員の所属と連絡先を更新しました。

○京都支部報6月号目次

できますようお願いいたします。

◆◆◆会費納入のお願い◆◆◆

会員の皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。毎号、大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしていますが、残念ながら会費の納入率は依然として思わしくない状況にあります。

会費納入率の低下は大図研の活動に影響を与えるだけでなく、支部セミナーなどにも悪影響を及ぼします。既に新会計年度に入っていますので2004年度の会費納入をお願いします。

またすでに2003年度(大図研会計年度2003.07～2004.06)は終了していますが、納入率は五割弱と、低い割合にとどまっております。納入いただいていない会員の皆様におかれましては、一刻も早い会費の納入にご協力いた

記

大学図書館問題研究会費	¥5,000
京都支部会費	¥2,000
合計	¥7,000

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員にことづけていただきますようお願いいたします。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904  
大学図書館問題研究会京都支部

ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 dtkk@rg7.so-net.ne.jp までお願いいたします。